

## 企業と哲学-京セラ

清華大学学生代表

見学日時：2018年5月30日（水）09:30-12:45

見学場所：京セラ

### 見学概要

京セラ社のホールに足を踏み入ると、まず二階の会議室に通じるエスカレーターが目に入った。日中両国では外出の際の習慣が異なるが（日本は左側、中国は右側）、私たちはすぐさま日本の習慣になじみ、自発的にエスカレーターの左側に立ち今回の見学を始めた。

はじめに私たちは会議室を訪れた。そこでは同社のスタッフがすでに私たちを出迎えていた。そして双方からの挨拶の後、鬼頭今日子女史からビデオや資料を使った京セラについての紹介があり、私たちは同社の状況や沿革などについておおよその理解を得ることができた。



京セラの代表者からの歓迎のあいさつ

その後私たちは二班に分かれ、それぞれスタッフの引率の下ファインセラミック館の見学を行った。ファインセラミック館では人工膝関節から環境に優しいプリンター、そしてセラミック基板からセラミック工芸品など同社の様々な製品を目にし、同社の製品があらゆる分野に及んでいるというその創造力の高さに私たちはとても驚かされた。



スタッフからの紹介に真剣に耳を傾ける

各種製品の見学を終えた私たちは、京セラの創業者である稲盛和夫氏に関する稲盛ライブラリーを訪れた。館内には「敬天愛人」と書かれた横額が掛けられ、稲盛和夫氏の哲学や理念についての紹介を行っていた。私たちは創業当初から時間を追って稲盛和夫氏の生い立ちについて理解を深めた。今日に至るまでには様々な困難があったが、強靱な意志と最良を目指すという哲学そして理念により、稲盛和夫氏は京セラを成長させ、今日では非常に大きな影響力を持つ大企業となっている。

次いで私たちは京セラ美術館を訪れた。その他の美術館とは異なり、京セラ美術館において展示している絵画は名作と呼ばれる昔の絵画ではなく、現地の画家による水彩画がメインになっている。これらの作品は明快なタッチで色鮮やかに描かれているが、それ以上に重要なポイントとしては、京都各地の自然景観や文化的景観を題材としていることから非常に生き生きとしている。これらの作品を通じて、実際にその場にいなくても桜の時期の京都や鴨川の風景を感じることができた。



京セラの社員食堂を体験

最後に私たちはスタッフの引率の下、社員食堂に向かい同社のランチを体験した。食堂自体は大きいわけではないが、ラーメン、カツ丼、セットメニュー、付け合せなど様々な食事を提供しており、食堂内は温かい雰囲気ながらも整然としていた。鬼頭今日子女史のお話から、ここのランチはコストパフォーマンスがとても優れており、約 20 人民元相当で美味しい食事がとれ、他所に比べ非常に安いことを知った。そして食事を終えた私たちは京セラの皆さんと記念写真を撮り、この度の楽しかった訪問を終えた。

## なぜですか？

問：京セラの製品は多くの分野に及んでいることから、会社としても各分野の人材を必要としていると思うが、京セラとしては大学生に見学や職場実習といった機会を提供するなど各大学との提携を行っているのか？

答：提携を行っている。京セラにはあらゆる分野の人材がいるからこそ、絶えず革新や進歩をすることができる。私たちの多くの製品には最先端の科学理論が求められるため、私たちは日頃から大学の実験室との提携を行っている。もちろん、私たちとしても優秀な大学生を受け入れており、毎年複数の中国人学生も審査や面接を通じて京セラの仲間入りをしている。

問：京セラの人工膝関節は実際の人間の膝関節のように動くのか？運動好きな人はこの人工膝関節で運動をすることができるのか？現時点において、中国の病院でも京セラの人工膝関節により患者への治療を行っているのか？

答：セラミックと人体の筋肉には優れた互換性があるため、人工膝関節は膝関節の代わりをすることができる。一般的な運動であれば人工膝関節への負担はない。現時点では医療設備の導入に政府側の長期間の審査を要するため、中国ではまだ当社の人工膝関節は利用されていないが、日本ではすでに多くの病院において患者の治療に利用されている。

問：京セラの太陽光パネルはすでに日本各地で使用されクリーンな電力を供給している。しかしこの技術には多くのシリコンが必要で、またシリコンの市場価格も高いことから、太陽光発電は従来の発電に比べ価格優位性に欠けるのではないのか？

答：確かにコスト面から見ると、太陽光発電は従来の発電方法よりコストが高いが、私たちが太陽光発電を広める過程においては政府もまた相応の助成を行うため、価格的には大きな違いはない。また今後の技術の発展に伴い、私たちは両者の価格は近いうちに同レベルになると見ている。その折には太陽光発電は次第に市場シェアを獲得し、これまで以上に環境に優しい世界の構築に貢献すると考えられる。

## 感想

日本には多くの長い歴史を持つ企業が存在し、それらの企業が今まで存続しているのはきっと何かしらの理念を守り続けているからであり、京セラも例外ではない。稲盛和夫氏が京セラを創業して以降に下した様々な意思決定はいずれも自身の原則に則ったものであり、つまりいかなる時代にあっても終始「敬天愛人」の理念を守り通してきたのである。

このことから、一企業の成否は表向きにはその経済効率に基づくが、実際にはその経営理念により判断されなければならない。強い精神力と正しい哲学そして理念があれば、小さな企業でも発展ができ、いずれは大きく成長することができるのである。



清華大学生の集合写真